



ヒヌマイトトンボ

ヒヌマイトトンボの生息地 桃島池の自然を守りたい

城崎地域には、絶滅危惧種に指定されているヒヌマイトトンボが生息する桃島池があります。この豊かな自然を守り、ヒヌマイトトンボを絶滅させないように、自然保全活動に取り組んでいる一人の男性を紹介します。

松本逸朗 さん(59歳)城崎町湯島在住



桃島池の自然を考える会の事務局長を務める松本さん。平成7年にヒヌマイトトンボに出会ってから桃島池周辺の保全活動を開始。平成20年に開催される「全国トンボ市民サミット豊岡大会」を成功させたいと意気込む

地域住民とともに 豊かな自然を守る

城崎総合支所の裏手に広がる桃島池には、環境省と兵庫県が定める絶滅危惧種Aランクに指定されているヒヌマイトトンボが池の一角の茂みを中心に生息しています。

このヒヌマイトトンボの魅力に引き込まれ、豊かな自然を守ろうと立ち上がったのは、桃島池の自然を考える会の事務局局長を務める松本逸朗さん。同会は平成9年に発足し、現在約60人で活動しています。会の主な活動は、桃島池の周辺の環境美化活動です。週に一度、メンバーが交代で桃島池を巡回し、草刈りやごみ

拾いを行っています。

松本さんは「ヒヌマイトトンボは美しい環境の中でしか生息できません。つまり、ヒヌマイトトンボが生息する豊岡は恵まれた自然の宝庫ともいえます。人と自然が共生できるような取り組みが大切です」と控えめながらも、力強く話します。

体長約3センチの 小さなトンボ

ヒヌマイトトンボの成虫は体長約3センチで、海水と淡水が混じる河川敷や沼、アシが生える湿地などに生息しています。オスは黄緑色、メスは橙色を特徴としています。昭和47年に茨城県の涸沼町

で発見され、この名前が付けられました。当時、太平洋側にしか生息していないとされていましたが、平成4年に桃島池にも生息していることが確認されました。6月に羽化を始め、9月ごろまで見ることができません。

恵まれた自然を 残し伝えたい

松本さんは、桃島池の恵まれた自然と、そこに生息するヒヌマイトトンボの素晴らしさを人々に伝えようと、毎年桃島池に生息する生物の観察会を行っています。

今年も、8月5日に桃島池と桃島川に生息する生き物観察会が行われました。当日は、松本さんの案内のもと、参加した市内の小学生ら7人が、桃島池付近の湿地でヒヌマイトトンボを観察しました。

参加した谷口宏樹くん(五荘小3年)は「たくさんのトンボが観れたから楽しかった。貴重なトンボがいなくならないように自然を大切にしたいです」と元気いっぱい話している様子を見ていた松本さんも、満足の様子でした。



毎年開催されている桃島池の生き物観察会。「ヒヌマイトトンボを見つけられるかな」

全国トンボ市民サミットの会場が豊岡に

来年6月28日・29日には、城崎を主会場にして、全国トンボ市民サミット豊岡大会が開催されます。

同サミットには、国際トンボ学会や全国の自然保護団体・専門家が集まり、さまざまな活動の事例発表を行い、環境保全のあり方などを話し合います。

松本さんは「都道府県の持ち回りで開催されるこの大会が豊岡で開催されるということは、とてもうれしいことです。準備が大変ですが必ず成功させ、豊岡のPRにつなげたい」と意欲を燃やし続けていました。

学校探検 25

仲良し 強し 美しく

港西小学校 (豊岡)

案内者 今津

瞬くん



港西小学校は、豊岡最大の漁港、津居山港のすぐ近くに位置しています。津居山、瀬戸、小島の3地区から、現在109人の児童が通っています。

同小学校に通い、野球部に所属する今津 瞬くん(6年)。大人になっても大好きな野球を続けていきたいと話す今津くんに港西小学校を紹介してもらいました。



地域と深くかかわりながら、子どもたちが楽しく学習している港西小学校

港西小学校の特徴の一つは「つるるん探検隊」があることです。5・6年生が校区内の事業所にお世話になって、仕事の体験活動を行います。僕は昨年、魚介類の加工工場では仕事を体験させてもらいました。仕事の内容は、ハタハタやカレイなどの魚を海水で洗った後、箱に詰めて商品として出荷する作業でした。たくさん魚を洗って次々と箱に詰めていくことが、こんなに大変だと思いませんでした。

また、1学期の終わりには、水上フェスティバルを行います。このフェスティバルは、児童会が中心になって企画したもので、当日は、全学年混合で班をつくり、プールに沈んでいるゴルフボールを拾った数を競ったり、スポンジの板に低学年を乗せてリレーを

します。

暑い夏にプールで思い切り遊べるので毎年楽しみにしています。

このほかに、港西小学校では、港地区にある港東小学校・港中学校の3校合同で、気比の浜をきれいにするボランティア活動を行っています。これは、地域の方々と一緒に気比の浜のゴミ拾いをしながらふれあいをする場になっています。



子どもたちが楽しみにしている水上フェスティバル「冷たくて気持ちいい」

港西小学校では、地域と深くかかわりながら、さまざまな行事を行っています。

顔輪 笑の

厳しく優しく 礼儀を学ぶ

『竹野青少年空手道教室』(竹野)

「エイツ」「ヤアツ」元気なかけ声が竹野B&G海洋センターのトレーニングルームから聞こえてきます。

毎週土曜日、ここで空手道の練習をしているのは、竹野青少年空手道教室に通う皆さんです。同教室は昭和62年に発足し、現在の会員数は33人です。

代表と指導を務める古保治郎さんは「この教室では、礼儀を大切にしています。しつかりとあいさつができることを第一に、メンバーと交流を深めながら技術の習得をしていきます」と練習に励む子どもたちに期待を寄せています。

同教室では、まず、念入りに柔軟体操をした後、基本動作から突きや蹴りの動作確認に移り、続いて形や組み手の練習をします。

また、同教室に通う子どもたちは、定期的に大会に出場し、武道を通じて交流を深めています。

会員の山田康平くん(竹野)

小4年)は「みんなと楽しく練習ができます」。田畑美咲さん(中竹野小4年)は「組み手の試合で勝った時がとってもうれしいです」とそれぞれ話します。

発足後20周年に当たる今年11月に記念の演武大会が行われる予定で、同教室の会員や卒業生が一堂に会し、日ごろの練習の成果を発表します。

同教室では、小さな子どもから練習に励み、心身を鍛えることによって、より良い人格の形成をしようという活動が展開されています。



かけ声に合わせて突きの練習をする子どもたち